

令和8年度 第1回上下水道事業経営審議会 概要

日 付	令和8年8月4日（火）
会議の場所	役場 大会議室
開 会	午前10時00分 ～ 午前11時30分
出席委員	8名
欠席委員	0名
要 点	
【委嘱状の交付】 町長より、委員8名へ委嘱状を交付した。 【会長、副会長選出】 会長に高橋今日子委員（東京大学大学院特別研究員）、副会長に腰山良悦委員（町議会議員）を選出した。 【諮問書手交】 「持続可能な経営にするため、適正な水道料金について諮問する」として、町長から高橋会長へ諮問書を手渡した。 【議事】 現状の経営状況や今後の見通しについて事務局から説明した後、委員との意見交換、質疑応答を行った。また、値上げの方向性について委員から同意をいただいた。 ・3月議会で決まる前に住民に周知したほうがよいのではないか。 →審議会の概要を報道や広報、HPなどで住民へ周知する。 ・住民からの意見を募るためにアンケートを実施してはどうか。 →住民を対象にアンケートを実施し、次回の審議会で結果を示す。 ・自分の身の回りでも住民がいなくなっていて、今後も水道の使用量は減っていくと感じている。水道の加入率はいくらか。また、一般会計からの繰入金はあるか。 →水道の普及率は100%。基準内の繰入金としてのみ一般会計からの繰入している。収益的収支の繰入金（利息の支払い）として約800万円、資本的収支の繰入金（借入金の償還）として約7,000万円を繰入している。赤字補填としての繰入金はない。	

- 県内の市町村で黒字経営できている自治体はあるのか。
→県内で一番人口の多い秋田市でも料金改定をしている。特に小規模な自治体は当町と同じで、非常に厳しい状況だと思う。
- 町内で浄水場はいくつあるのか。水道料金は同じか。その中で経営が厳しいところはあるのか。
→石川地区も含めて6施設ある。水道料金は石川以外は同じ。基本的には自然流下で水を送水しているので、地区による経営状況の差は無い。
- 水道料金の改定では経営の黒字化を目指すのか。
→料金だけで黒字にするためには料金が倍になってしまうので、どうしても不足する部分に関しては一般会計からもらうことになる。まずは毎年の資金不足が約3,000万円なので、その部分を料金改定で補えればと考えている。
- 回収率40%は低い。水道の料金は。
→回収率は水1m³の供給単価と給水単価の割合。全国平均は92%だが、人口が1万人以下の自治体は極端に低くなる。10m³までは基本料金で、税込み1,100円、超過料金は1m³あたり143円。
- 今後の水道管の更新の予定は。
→水道管1kmの更新で約1億円かかる。古い水道管から順番に更新していく予定で、今後は年間5,000万円、10年間で5億円を見込んでいる。
- どの程度の値上げを考えているのか。
→3,000万円を回収するために、40%~50%の値上げを想定している。
- 値上げするにしても、年金生活の高齢者も多いので、なかなか大変かと思う。
→10m³までは基本料金なので、基本料金の上げ幅を抑えるとか、軽減措置を設けるなどいろいろなやり方がある。次回、案として何パターンか示したい。軽減措置を設けるかどうか、物価高を考慮するかなど複雑になるので、会議の事前に資料を配布したい。
- 長期的には広域連携も一つの手段。秋田県では下水道施設に関しては広域連携も進んできている。自分の地域はおいしい水というアイデンティティの部分もあるので単純に広域連携すればいいという話ではないが。
→能代山本地域は交流が深いので、将来的には広域連携の話になるかもしれないが、現状では話は進んでいない。
- 住民目線では、周辺自治体との比較が気になる。例えば、能代市は八峰町より料金が高い。
→能代市も令和13年度に約4割値上げする。給水原価が自治体によって異なるため、一概に料金だけでは経営状況を比較できない。平坦な地形でポンプ場を多く経由する自治体は維持費が多くかかるので料金も高くなる。

- 本日は水道事業の現状と今後の見通しを委員で共有した。値上げの方向性について異議はないか。
→一同、異議なし。